

学校教育目標	夢と志をもち 果敢に挑戦し 自己実現する児童生徒の育成	経営理念	〇小中一貫校として、学校、家庭、地域が相互に連携協力の理念に基づき、「協調」と「信頼」で結ばれる教育環境を実現し、児童生徒の“育ちと学び”を支援していく。 ～児童生徒に軸足を据えた教育活動の展開～
--------	-----------------------------	------	---

評価計画						自己評価					学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)	改善方針
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析		改善方針
						10月	2月					
確かな学力(学習活動)	1	「わかる授業」学ぶことの意味を実感できる授業の実践 ～児童生徒を主体的な学び手に育成する～	・小中一貫教育・接続教育を推進し、児童生徒が安心して学習できる教育環境を整える。	・理科、英語、音楽の準教科担任制の導入と総合的な学習でのTTを実施する。	〇授業満足アンケートにおいて「授業がよく分かった」と答える児童生徒の割合を80%以上。	80%	小94% 中95% (94.5)	118%	4	・児童アンケートの結果、肯定的な回答の割合は93.5%だった。準教科担任制の導入によってより専門的な指導につながった。 ・「授業はよくわかる」と肯定的に回答した生徒の各教科平均は95%であった。小中学校の教員が研修を通し、発達段階に応じた授業を交流したり、授業研究を行ったりすることで、系統的な学びを意識した授業づくりができた。	A	・引き続き、準教科担任制の導入による指導の充実を図る。 ・国語・算数の単元末テストの平均正答率によって具体的な学力の定着を把握する。 ・学習に課題の大きい児童については、朝の帯学習や個別指導等により、基礎的・基本的な学力の定着を図る。
			・eSTEAM教育を推進し、児童生徒の「推論する力」を育成する。	・総合的な学習を中心に発達段階に応じて、系統的かつ計画的にeSTEAM教育を推進していく。	〇総合的な学習の時間の学習において「課題をもち、試行錯誤しながら見直しをもって課題解決を行った」と答える児童の割合を80%以上。 〇授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行った。(eSTEAM)	80%	小93% 中100% (96.5)	120%	4	・児童アンケートの結果、肯定的な回答の割合は93%だった。校内研修をしたりTTで指導を行うことにより総合的な学習のサイクルに則った適切な指導が行われたと考える。他教科等とも関連付けさらに指導の充実を図る。 ・探究の成果として学んだことを創り出す活動は、ICTを活用しレポートでまとめたり、3Dプリンタを使ってどの学年も創作活動を行うことができた。系統的に資質・能力を育成するということはこれから協議していきたい。	A	総合的な学習だけでなく、教科等の学習においても、課題解決的な学習の手法を取り入れたり、価値付けながら指導したりする。
			・ICT活用の推進を図り、児童生徒の学習意欲と興味関心を高めていく。	・児童生徒が学習課題を発見し解決していく行くために、タブレット等のICT機器を活用していく。	〇児童生徒アンケートにおいて「学習の中でICT機器と使うことは、学習の役に立つ」と答える児童生徒の割合を90%にする。	90%	小97% 中85% (91)	100%	3	・児童アンケートの結果、肯定的な回答の割合は96.5%だった。校内研修等で具体的な使い方を研修したことで、活用が進んだと考える。 ・学級や学年で足並みをそろえ、6年間で系統的に情報機器を活用する力を付けていく。 ・情報リテラシーや安全指導など、情報モラル教育を発達段階に沿った系統的な指導を充実させる。 各教科で活用が進んでいる。一方で、教科によって活用の仕方が固定的であり、活用の幅を広げていく必要がある。教科で育成したい資質・能力を育成するために、効果的な活用方法について教科毎で交流していく必要がある。	B	・タブレットPCの活用技能と情報モラル教育について、系統表を作成して指導に当たる。
豊かな心(生徒指導)な体	2	・自立・自律し、自他のことを大切に、自己の健康と体力について理解し、高めていこうとする児童生徒を育成する。	・児童生徒の自己有用感を高め、アイデンティティの確立を図る。	・児童会や生徒会活動をはじめ、学級活動等の特別活動、部活動、クラブ活動、委員会活動等を通じて、児童生徒の主体性と自発性を育ていく。	〇児童生徒アンケート「集団(学校、学級、部活動、地域など)のために自分の力を使ったり、人と協力したりして取り組んだ」と答える児童生徒の割合を90%以上。	90%	小93% 中93% (93)	103%	3	・児童アンケートの結果、肯定的な回答の割合は93%だった。各委員会児童主体で進めていくことで、自分たちで工夫して取組みを行うことができた。(小) ・生徒アンケートの結果、肯定的な回答は93%だった。特に体育大会等の行事や部活動で意欲的に活動することができた。(中)	A	・委員会や学年で行っていることを全校が知る機会がなかった。朝会や掲示などを用いて自分たちの行っている活動を広めていく。(小) ・引き続き、体育大会や合唱祭、委員会活動など、生徒主体での取り組みを充実させていく。(中)
			・食や健康について考えるとともに、自己の体力の向上に主体的に取り組んでいく児童生徒を育成する。	・体力づくり年間計画を基に、行事や体育の時間の充実を図り、健やかな体づくりに取り組んでいく。 ・委員会活動を中心として、児童生徒自らが目標を立てて健やかな体づくりに取り組んでいく。	〇「運動が好き」と答える児童を80%以上。 〇生徒アンケート「自分の成長を学校行事や日々の生活を通して感じる事ができた」90%以上。 〇不登校生徒数 全体の5%以下。	80%	小84% 中84% (84)	105%	3	・児童アンケートで、運動することが楽しいと答える児童は、84%であった。授業の中では、人の技を見たり、運動している様子を見あつたりする時間をとることで、運動の楽しさを感じることができた。(小) ・生徒アンケートで運動をすることが楽しいと答える生徒は84%であった。昨年と比較して握力測定や反復横跳びなど全国平均を上回る項目が増えた。(中)	B	・なわとびカードを後期から本格的に始めることで、友達との教えあいや達成感を味わわせ、さらに運動することを楽しいと感じる児童を増やしていく。(小) ・体力測定の結果をもとに課題と改善策を生徒に考えさせ、取り組む。(中)
			・安全で安心できる教育環境を整える。 * 不登校児童生徒対策	・スクールカウンセラーや心のサポーターと連携した相談室を運営していく。	・不登校生徒数 全体の5%以下。	95%	小99% 中96% (97.5)	103%	3	・不登校生徒は全体の1%であった。(小) ・不登校傾向のある児童に対しては家庭との連携をこまめに取ったり、学校での過ごし方を工夫したりすることができた。(小) ・多くの生徒が日々の授業や掃除、行事等に積極的に取り組むことができていく。(中) ・不登校生徒数は全体の4%であった。SSRの設置が効果的に機能していると考えられる。(中)	B	・スクールカウンセラーなどの人材の周知を図る。(小) ・家庭訪問を行うなど不登校児童と対面での関わりが途絶えないようにする。(小) ・適切な評価や声掛けを行い、自己肯定感の向上や、成功体験につなげていく。(中) ・引き続きSSRの活用や関係機関等との連携を密に行っていく。(中)
信頼される学校	3	・地域とともにある学校として、信頼される学校づくりを推進する。	・コミュニティスクールの体制をもとに、地域連携を推進する。	・コミュニティルームを拠点とした地域人材との連携や活動を実施していく。	〇月1回推進委員と連携を図る。 〇月1回、学校だよりを発行し、学校HPも更新する。	85%	80.2%	94%	2	・地域学校協働活動推進員と不定期ではあるが連携し、学校運営協議会の内容や情報交換を行っている。 ・保護者アンケート「地域の人材や施設を積極的に活用し、コミュニティスクールとしての特色を出している」肯定的評価68.2%(中学校)	B	・コミュニティスクール(学校運営協議会)について保護者、地域へHPを利用して周知を図っていく。 ・学校運営協議会で出された課題について、地域学校協働活動推進員と協力してできるところから取り組む。
			・学校HPや学校だより等による情報発信を定期的に行う。	・学校の取組や児童生徒の躍動的・活動的な様子を広く発信する。		100%	100%	100%	3	月1回学校だより、随時HPを更新している。しかし、小学校は学年のページについては差がある。	B	・日にちを決めて定期的に更新していく。
働き方改革	4	・業務改善を積極的に進め、超過勤務時間数(月平均)を60時間以内にする。	・業務改善を図り、教職員の健康維持、増進を図っていく。	・小中一貫校としての校務運営組織の見直しと精選を図っていく。	・入退校記録 ・学校衛生委員会による傾向分析	90%	100%	111%	3	・月平均小学校は52時間、中学校は58時間である。主任など限られた教職員であるので、業務の軽減策を考える必要がある。	B	・自己管理する意識を持たせる。 ・校務分掌の見直しをする。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価	4...目標を上回って達成	3...目標どおりに達成
	2...目標をやや下回って達成	1...目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価	A...とても適切である	B...概ね適切である
	C...あまり適切でない	D...全く適切でない
	(N...判定できない)	